

# 豊浜の鯛まつり

季節のおまつり

## 豊浜の鯛まつり

名古屋から南にのびる知多半島の先端にある豊浜は伊勢湾に面し県下随一の漁獲量を誇る。鯛祭りは南知多の夏の風物詩として七月中旬に海の安全と豊漁を祈り、巨大な張りぼての鯛が海上をまるで生きているかのように遊泳するさまは天下の奇祭と呼ぶにふさわしい。

元来は「太鼓打ち」というこの地方のお車にのせた太

鼓を地元の子供が舞いながら叩き奉納する祭であったが、明治十八年頃、地元の船大工が興を添えるため、はつかねずみの張りぼてを作ったのが始まりとい



われる。以降飾り物は色々変わったが、大正の頃漁村に因み鯛に定着した。形も段々に大きくなって鯛神輿と呼ばれるようになった。更に昭和になってからは海にも入るようになった。現在は須佐の四地区と中洲の一地区と五台あり、木と竹の骨組に白木綿を巻いて作り、長さは10mから十八m位で、目にはステンレスの洗面器が入れている。須佐地区では豊浜漁港で船に曳かれ遊泳したり、陸に上がっては若衆が伊勢音頭を唄いながら町を練り歩き、浜辺の御飯屋へ昼頃に集結してくる。ここでは赤色の鯛と時には黒色の鯛が揉みあう「ぶつかり合い」をしたり、鳥居の鯛止めという棒を潜ろうと鯛神輿が激しくぶつかってゆく「打ち込み」があり迫力満点である。

一方中洲の鯛神輿も六十人ほどの若衆に担がれて町中を練り歩くが、あまりに重いので休み休み中洲漁港を目指す。地元の人には「おいなあ中洲は二時から泳ぐんな」と言っ、海に入るのを楽しみに待っているようだ。暑い夏の盛りに巨大な鯛神輿は気持ちよさそうに海遊する。地域の人が創り上げた祭りが、今やしっかりと郷土の文化として根付いている。

(写真・文 宮本卯之助)



上) お車に乗せた太鼓 下) 中洲漁港を遊泳する巨大な鯛神輿

第9号 平成27年6月発行

この国の佳き伝統とともに  
宮本卯之助

神輿むかしばなし

## 町神輿



沿道の人々の視線を一身に集めながら、威勢の良い掛け声とともに、賑やかに、また勇壮に渡御される祭りの華、神輿。今や江戸の祭りに欠かせない存在となっている町神輿ですが、東京において盛んになったのは、意外にも明治に入ってからのことです。

明治の中頃ともなると、東京では道路や住宅事情の変化に伴い、祭の形態も変化を余儀なくされました。それまでの祭りでは神輿は神社の宮神輿だけで、町会では江戸型山車などを曳行して参加していましたが、電灯線が張り巡らされるなど背の高い山車を曳く事が困難となり、それらに代わって町神輿や曳太鼓が作られるようになりました。

それぞれの町が考える「粋」や「遊び心」が形となって出来上がったものばかり。宮神輿に比べて装飾性が高く、町会の誇りと情熱が詰まった地域の宝物です。

大きさや屋根の形だけでなく、飾紐の色、彫刻の意匠などの装飾に個性が光ります。趣向を凝らした神輿の数々を見比べるのも、祭りの楽しみ方の一つです。

先月執り行われた三社祭では、実に一〇〇基もの神輿が町々を渡御します。五月になると、準備のために神輿が弊社工場にずらりと勢揃いします。職人たちは神輿の準備、点検に追われ、神輿が無事戻ってくるまで心休まる時はありません。

三社祭の後、東京では入梅頃まで下町を中心に祭りが盛んに行われます。ぜひ足をお運びください。

祭りとともに

## 御仮屋

祭りが始まる数日前になると、御仮屋おかりやに神輿が並ぶようになります。御仮屋は、神さまがお休みになるための仮設の小屋です。町並みの中に一時的に設けられることが多く、竹や簾などを使って、町の鳶頭たちにより手際よく組み立てられます。

軒先には祭りの提灯、竹箆やお神酒などが供えられます。御仮屋の造りや設えは町会により様々で、かつては出来映えを競い合うところもあったほど。祭りが終わると、全てが片付けられ、またいつもの町並みに戻ります。鳶頭たちが作り上げていく江戸の風情です。



一年間待ちわびた三社祭は嵐のように過ぎ去り、虚脱感と幸せな余韻に包まれ、浅草に生まれて本当に良かったと早くも来年が待ち遠しい祭の後。宮本では町会神輿の準備から本社神輿の片付けまでほぼ二週間に渡り、全社一丸となって祭りに取り掛かります。

今年から父に代わって会社の代表として例大祭式典に参列。股引腹掛から着物袴に衣装を変えた自分の姿を見て、もうそんな年かと過ぎ行く年月を実感しました。地元町内の宮神輿渡御では、長年に渡って貢献があった亡き担ぎ手の遺影をかざして故人を偲ぶ姿もあり、思わず私も男泣き。少しずつ姿を変えながら、世代から世代へと、祭は連綿と伝承されていきます。人や町の景色は変わっても、風情は守り伝えていく。我が家の仕事の責任を感じる今年の三社祭でした。

代表取締役社長  
宮本芳彦

株式会社 宮本卯之助商店  
企画広報室  
〒111-0035  
東京都台東区西浅草2-1-1  
電話 03-3844-2241  
www.miyamoto-unosuke.co.jp